

## 2025 年度ゼミ（演習 1）要覧

担 当 者 名	BAE JUNSUB
演習テーマ	韓国と日本の社会問題と福祉を考える：政策・歴史・市民参加の視点から
演習の内容	<p>このゼミでは、韓国の政治・経済・社会・文化に注目し、現代社会が抱えるさまざまな課題について、日本との比較も交えながら多角的に考察します。とりわけ、<b><u>制度や政策の観点から社会問題を捉え、日韓両国の現実を比較する力を養うことを目的としています。</u></b></p> <p>「社会問題を知る」だけでなく、「自分の言葉で考え、実際に関わる」ことを大切にするのが本ゼミの特徴です。韓国社会については、断片的な知識にとどまらず、社会構造を立体的に理解することを目指し、その視点を活かして日本社会を客観的に見つめ直す力を養っていきます。</p> <p>2026 年には、約 1 週間の韓国での校外実習を予定しており、民主化や近現代史に関連する施設の訪問や、現地大学生との意見交換を通じて、実地での学びを深める機会を提供します。また、NPO や福祉関係者との対話、地域でのボランティア活動など、教室の外で社会と接点を持つ体験も大切にしています。</p> <p>演習 2A・2B では、日本の現代史や社会構造に関する文献講読を行うため、<b><u>韓国に限らず日本の社会にも関心を持っていることが望まれます。</u></b>特に、福祉や市民活動に関心があり、実際に行動しながら学びたいという意欲を持つ学生の参加を歓迎します</p>
テキスト・参考書	<p>テキスト：浅羽祐樹編(2024)『はじめて向きあう韓国』法律文化社。</p> <p>参考書：岩田正美、上野谷加代子、藤村正之（2013）『ウェルビーイング・タウン社会福祉入門（改訂版）』有斐閣。</p>
成績評価の基準	授業参加度（30%）、プレゼン（30%）、期末レポート（40%）
校 外 実 習	実施する
校外実習を実施する場合、実習地・時期、個人負担額	<p>実習地：韓国（ソウル・釜山・光州など）</p> <p>時期：2026 年 9 月</p> <p>個人負担額：15 万円程度</p>
選考方法	<p>面談（場所：8421 個人研究室）＋ 小論文（1500 字程度）</p> <p>面談：5 月 9 日（金）12 時 45 分～13 時 15 分</p> <p>5 月 16 日（金）12 時 45 分～13 時 15 分</p> <p>5 月 22 日（木）：12 時 45 分～13 時 15 分</p>
小論文 （テーマ・書式・枚数、提出期限・方法）	<p><b>小論文のテーマ</b>：現在の関心をもとに、現時点で考えている研究テーマと、なぜ BAE ゼミに応募しようとしているのか、また BAE ゼミで何を学びたいと考えているのかを関連づけて論じてください。なお、演習 1 のシラバスを参考にしながら、1500 字程度でまとめてください。</p> <p><b>提出方法</b>：「演習 1」申込書とあわせて、申込受付期間内に、manaba の「レポート提出」機能を使って提出してください。</p>
メールアドレス	junsub@k.meijigakuin.ac.jp

説明会・ オフィスアワー	場所：8421 研究室 <u>参加を希望される方は、面談の希望日時を明記のうえ、あらかじめ担当教員までメールでご連絡ください。</u>
履修済・履修中であることが望ましい 授業	今後、社会政策論・比較政策論を履修することが望ましい。
2026・2027 年度に 在外研究等で演習を 開講しない可能性	なし
認定留学期間中（演習 2・3 開講学期中）の <u>遠隔指導*</u>	否
備考	担当教員は社会政策を専門としており、 <u>本ゼミでは K-POP、ドラマ、ファッションなどのサブカルチャーや流行文化そのものを主なテーマとして扱うことはありません。</u> これらに関心を持つこと自体は否定しませんが、本ゼミでは社会構造や政策の背景にある課題に注目し、深く考察する姿勢を重視しています。

\* 「遠隔指導」については、「演習 1」選考に関するガイダンス資料を確認のこと。